

# 新年賀詞



毎月十五日発行  
所 行 社  
宗 像 大 会  
宗 像  
〒811-85 福岡県宗像郡玄海町  
電話 0940-62-1811代  
定価 一年送料共 1000円



二月十一日には  
国旗を揚げ  
建国記念日を  
祝いましょう

## あめつちの神にぞいのる朝なぎの 海のごとくに波たたぬ世を

### — 今上天皇 御製 —

## 頌 春

宗像大社宮司  
葦津嘉之



昭和五十九年、皇紀二六四四年の  
新春を迎え  
謹しんで  
皇室のいやさかと  
氏子崇敬者各位の、ご多幸を心か  
ら、お祈り申し上げます。

## 建国記念日と紀元節

年末総選挙といふ事態をむかへ、多くの問題がその結果待ちで、師走多忙の月と過ごしてゐる。明年二月の建国記念日奉祝の行事をどう実施するかもその一つで、今年の建国記念日が従来、その総理府、文部省に加へ自治省の後援も得て奉祝されただけに、関係者は「政府主催」を実現を切に望んでゐるの、これも新内閣の姿勢を見なければ何とも言へない。

総理府の担当官が、建国記念日奉祝の行事は「特定グループの特定の行事」として定められ

本年は甲子(きのえね)の年であり、甲は十支のはじめであり、子は十二支のはじめでもあり、いづれも六十一年に一度、めぐり来る第一年目の年にあたり、すべての事象が一新される。めでたい年でもありません。

皇室におかれましては、今月二十六日には、天皇、皇后両陛下、御大婚六十年をお迎えあそばされ、さらに四月十日には、皇太子同妃両陛下、御成婚二十五年をお迎えになられ、重ね重ね、お芽出たい新春を迎えることは、国民一人として、まことに御同慶にたえない次第であります。

国家鎮護、皇室守護のみまつり、第一儀とします宗像大社に於きましては、当社に下されました

「天孫奉迎、天孫奉祭」の神刺に基いて、元且早朝、本殿に於て、皇室のいやさか、皆様のご清福を心から祈念申し上げ、新春の祭典が、とどおりなく齎行出来ましたことを、まづもってご報告申し上げます。

昨年の内外の情勢を回顧しますと、春の統一地方選挙以来、参議院選、行政改革、政治倫理、暮の衆議員総選挙と政局は大きく揺れ動き、一方海外では北国のアキノ氏暗殺事件、ビルマに於ける韓国要人テロ事件、ソ連の大機空機撃墜、深刻化する中東情勢など、多難な一年でした。

このような情勢の中で思ふにおすは、冒頭の陛下の御製でありまして、海と題して、お詠みになられたが、以来この歌詞

をいただき、神楽(かぐら)としたのが有名な「浦安の舞」であります。この舞は広くのおやしろの神前で奉納されていりますが、当社でも春秋の列大祭をはじめ、公式祭に神前で行われます。歌詞の通り、畏くも陛下が、心から世界の平和と、私ども国民のしあわせを、神々に祈りなされる、大御心(おみこころ)が切々と伝わってまいります。

その陛下の悠久の祈りを神々に、ご報告申し上げるために神前で奉納されるのが、浦安の舞であります。昔から、私たちが住む、日本の国を、浦安の国と云ってまいりました。

浦安の国とは、美しい自然に恵まれた、みのり豊かな、心安らぐ平和な国という意味であります。

我々日本人は建国以来、二十有余年、皇室を中心とするために努力をしてまいりました。

現今の不安定な社会情勢下に対し、この御製に示された浦安の精神を堅持していくことが、世界の平和につながる道だと確信いたしました。

昨年、当社におきましては、五月十五日には皇太子陛下、同妃両陛下、お揃にて御参拝いただき、妃職の責任者として、この上なき

光栄であり、無上の喜びでもありました。

当社は御創建以来、皇室とは格別の御縁故を有するおやしろでありながら、一面殿下の御参拝は、歴史上はじめてのこと、当社の社史に昭和の輝やかいた栄光の一頁を作らせていただきましたこと、氏子崇敬者共々まことに御同慶にたえない次第であります。

また筑前大島鎮座の、宗像大社中津宮に於ては、この面殿下の御参拝を記念して、大島山頂鎮座、中津宮摂社、御嶽神社拝殿改築の意見がまとまり、沖中両宮奉賛会長、河野幸人氏を中心に、村民氏が二九丸となつて奉賛活動を開始された。この不況の中で、予想をはるかに上廻る募財成果を上げられ、十二月には無事竣工落成の運びとなりました。ここに御関係の皆様に対し、心から厚く御礼を申し上げます。

昨今のニュースによりまして、日本の経済も次第に立ち直りを見せてきたように伝えてまいります。

總てのものが一新されるといわれる、甲子年にあやかって、今年こそは、飛躍発展の輝やかしい一年でありますこと、心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

いふ。それは論理として神武天皇陵を国有財産としてあること自体が問題だ、といふことにもなりかねないが、果してどのやうに考へてゐるのか。

しかも一方で担当官は、現総理府総務長官の丹羽氏について「長官は個人の信仰にかかはらず靖国神社の列祭に出席してゐる」といつてゐる。つまり、それは丹羽長官の靖国神社参拝が公式参拝であることは是認してゐるわけだが(キリスト者が私的に神社参拝するはずはない)、靖国神社が神武天皇陵以上に鳥居などがあり神式の儀式の施設であることはいふまでもない。この大臣の靖国神社参拝は是としつつ、神武天皇陵への国民の拝礼を非とする根拠が、いったいどこにあると

「紀元節の歌を流す」ことを不可とする点でも同じやうな説弁が用ゐられてゐるばかりか、きはめて黙殺された重要な問題が含まれてゐる。担当官は、それを不可とする理由として「二月十一日は建国記念の日であつて紀元節ではない」と力を説き「二月十一日」に決めたのは、神武天皇実在説を政府で支持したからではなく、たまたまこの日が国民に馴染みあるからだ、と云つたからだ」と言つてゐる。もちろんだらう、と云つてゐる。もちろんだらう、と云つてゐる。もちろんだらう、と云つてゐる。

「たまたま国民に慣れ親しまれてゐた日だから」といふ総理府担当官の弁をそのまま認めても、国民がその日にどう慣れ親しんでゐるのかを追究すれば、どうして「紀元節の歌」あたるだらう。そして「紀元節の歌」もその慣れ親しんだ行事なのである。

(神社新報より)

昭和五十九年

1984

交通安全宗像大社の御神徳をたたえ奉りて

## 謹んで新年の御祝詞を申し上げます



福岡日産自動車株式会社

取締役社長 石金博隆  
福岡市博多区千代1丁目21番37号  
電話 代 633-5523

福岡日産モーター株式会社

取締役社長 小山静也  
福岡市博多区東比恵2丁目14-33  
電話 代 411-2323

日産プリンス福岡販売株式会社

代表取締役 永田千秋  
福岡市中央区平尾3丁目5-3  
電話 代 531-9561

日産サニー福岡販売株式会社

代表取締役社長 小田切忠夫  
福岡市博多区半道橋1丁目9番10号  
電話 代 411-4132

日産ディーゼル福岡販売株式会社

取締役社長 中尾一郎  
福岡市博多区榎田1丁目4番3  
電話 代 411-1831

日産チェリー福岡販売株式会社

代表取締役 小西正彦  
福岡市博多区半道橋1丁目10番10号  
電話 代 411-1123



— 今年も安全運転を心掛けて下さい —

# 昭和五十九年の新しき年を迎える 大祓式・除夜祭齋行



昭和五十八年十二月三十一日の大晦日の午後五時より本殿神門前に於いて、古儀に則り「年越の大祓式」が葦津宮司以下全職員奉仕のもと厳肅に齋行、引続いて除夜祭が齋行された。

この大祓式には、宗像市郡内外よりの氏子崇敬者並に一般参拝者多数の参列があった。又、同時に全国各地の氏子崇敬者の皆様方より寄せられた紅白の身代の人形も、諸々の罪と穢れが穢い清められた。

この大祓は、その年の前半(六月三十日)「夏越の祓」と後半(十二月三十一日)「師走の祓」のうち知らず知らずのうち犯した罪(つみ)と穢(けがれ)を洗い清める儀

## 八百余年の伝統誇る 古式祭・鎮火祭厳肅に齋行



古式祭「御座」



鎮火祭の儀式

去る十二月十五日未明、当大社の古式祭が厳肅に齋行された。この古式祭には、古へより特別なお供え物が捧げられ、

又、神前にはこの他に、今年の新米の御飯・海川山野の幸と共に、菱餅、九年母(密冊の一種)が特製の竹かごに入れ、御菓子として供えられる。

この後、清明殿に於いて神人相旨の「御座」が行われる。御饗には、碗に高く盛られた新米の御飯・味噌汁・菱餅・ケバサモ・栗の箸等が並んでいる。

式である。大祓の起源は、我々国古典である「古事記」・「日本書紀」によれば、伊弉諾尊(いざなぎのみこと)が、築紫の日向の極原で清めた故事と、天照大神が天の岩戸に籠られた事に對する罪を償われることが始りであるとも言われている。

### 御礼

年末年始に皆様方から御送付いただきました、真心からなる初穂料は、昭和五十九年の新年大祭に御神前にお供えいたし、皆様方の御健康と御繁栄を御祈念致しました。

- 謹んで新年の御祝詞を申し上げます  
昭和五十九年元旦
- 宗像大社責任役員会  
宗像大社氏子総代会  
宗像大社中西宮奉賛会
- |      |        |            |        |
|------|--------|------------|--------|
| 代表役員 | 葦津 嘉之  | 副会長        | 八波 武   |
| 責任役員 | 出光 昭介  |            | 田中 富樹  |
|      | 吉本 弘次  | 監事         | 永島 正助  |
|      | 倉田 興人  |            | 寿夫     |
|      | 河野 幸人  |            | 楠田 繁男  |
|      | 山本 三吾  |            | 寺島 忠夫  |
|      | 占部 真太郎 |            | 黒石 雅賢  |
|      | 八波 武   | 宗像大社中西宮奉賛会 |        |
|      | 田中 富樹  | 会長         | 河野 幸人  |
|      | 宇都宮 淳  | 副会長        | 沖西 彰   |
|      | 山本 三吾  |            | 佐藤 鶴吉  |
|      | 山本 三吾  |            | 遠藤 久一郎 |
|      | 河野 幸人  |            | 原 藤雄   |

- 謹んで新年の御祝詞を申し上げます  
昭和五十九年元旦
- 宗像大社宮司 葦津 嘉之  
外職員一同
- 謹賀新年  
歌会会員各位の御多幸を祈念  
申し上げます  
昭和五十九年元旦
- 宗像大社 宮司 葦津 嘉之  
宗像大社歌会会長 山本 三吾
- 宗像大社責任役員会  
宗像大社氏子総代会  
宗像大社中西宮奉賛会
- 宗像大社責任役員会  
代表役員 葦津 嘉之  
責任役員 出光 昭介  
吉本 弘次  
倉田 興人  
河野 幸人  
山本 三吾  
占部 真太郎  
八波 武  
田中 富樹  
宇都宮 淳  
山本 三吾  
山本 三吾  
河野 幸人
- 宗像大社中西宮奉賛会  
会長 山本 三吾  
副会長 河野 幸人
- 宗像大社責任役員会  
副会長 八波 武  
田中 富樹  
永島 正助  
寿夫  
楠田 繁男  
寺島 忠夫  
黒石 雅賢
- 宗像大社中西宮奉賛会  
会長 河野 幸人  
副会長 沖西 彰  
佐藤 鶴吉  
遠藤 久一郎  
原 藤雄

昭和五十九年 1984

交通安全宗像大社の 御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

<p>福岡トヨタ自動車株式会社 取締役神長 金子 宜嗣 福岡市中央区渡辺通り4丁目9番25号 電話(976)3331</p>	<p>愛される車をめざして <b>TOYOTA</b> 福岡のトヨタグループ</p>	<p>トヨタオート北九州株式会社 取締役社長 ト部 典明 北九州市八幡西区皇后崎町14番6号 電話(964)2111</p>
<p>福岡トヨペット株式会社 取締役社長 野村 恵之 福岡市博多区東光1丁目6番13号 電話(944)1121</p>	<p>トヨタカローラ博多株式会社 取締役社長 久恒 鑛造 福岡市博多区豊2丁目3番50号 電話(944)2111</p>	<p>トヨタビスタ福岡株式会社 取締役社長 喜多村 禎勇 福岡市中央区薬院1丁目5番8号 電話(974)6661</p>
<p>トヨタカローラ福岡株式会社 代表取締役社長 金子 宜嗣 福岡市中央区長浜2丁目1番5号 電話(972)7111</p>	<p>トヨタオート福岡株式会社 取締役社長 金野 宗次 福岡市博多区竹下2丁目2番31号 電話(944)5511</p>	<p>トヨタビスタ北九州株式会社 代表取締役社長 大石 武二 北九州市八幡東区桃園2丁目1番1号 電話(962)7851</p>

### 九州における「日本縦貫光ファイバーケーブル」工事 安全祈願祭・起工式齋行

十二月七日、午前十時半 本縦貫光ファイバーケーブルより光通信時代の幕明けを「ル」工事安全祈願祭、ならびに起工式が多勢の参列の



もと、当大社の境内で齋行された。 電気公社では、より豊かな情報通信システム (INS) の形式に向け、そのバックボーンとなる日本縦貫光ファイバーケーブルルートの建設を進めている。

この日本縦貫光ファイバーケーブルルートは、昭和五十九年度末完成を目指している札幌〜福岡間約二八〇〇km を結ぶデジタル基幹伝送路ですが、九州においても十二月七日 (水) から敷設工事に着手することになった。

九州における日本縦貫光ファイバーケーブルルートは、下関〜北九州〜福岡間を結ぶ約一〇〇km で、この工事着手により、INS 形

成に向けて歩み始めることになった。 従来の鋼製の同軸ケーブルに比べ、ガラス繊維を利用した光ファイバーケーブルでは、

① 今回使用の十六心ケーブルでは、最大四八、〇八〇回線分を伝達できる。

② 電話信号の中継距離が約十六・七倍と長い。

③ 外径が細く、軽量のため敷設距離が、最大六倍と長い。

④ ガラス繊維で資源的に無尽蔵。

などの利点がある。 祭典は、雅楽の音が流れる中、まず安全祈願祭が厳粛に齋行された。

つづいて起工式が行なわれ、九州電気通信局長、日本電信電話公社施設局長、米賀を代表して宗像市長、米賀を代表して宗像市長の祝辞が述べられた。

最後に全員で「安全をみんなで見守ろう」と工事の安全を唱和し、つづいてテープカットして、宗像市赤間の敷設現場へ、工用車輦が出發した。

### 御嶽神社 (中津宮境外摂社) 拝殿新築竣工祭齋行さる

昨年八月より改築工事が (されて) の竣工奉告祭進められていた、御嶽神社が、去る十二月十二日午前 (大島村御嶽山々頂に鎮座 十一時齋行された。



本殿の修復、拝殿の全面新築建替工事である。人口約二千名からなる筑前大島村は、中村国美弥村長のユニークな政治手腕によって、次々と話題を提供する島である。

新婚住宅の新築、村営牧場の運営等々、話題が豊富な村である。この御嶽神社の中央に海抜約百五十メートルを誇る山が、御嶽山である。この山頂に御嶽神社が鎮座されている。

御嶽神社は、宗像三柱姫大神の中津宮様の荒御魂と天照大御神様をお祀りしている。 古くから農家の人々に厚い信仰があり、現在でも大島村民の厚い信仰で守られているお社である。

この御嶽神社の本・拝殿改修、新築工事が昨年の八月頃に話題がもちあがり、早速趣意書が作成され、併せて島内外の崇敬者の皆様

による募金活動が始められた。 本殿の一部修復と拝殿に於いては、一部修復をと思つたのであるが、解体作業をしてより、部分修復は無理であるため、新築することになったのである。

大島村の人々の厚い信仰に守られて始められた年の歳も押し寄せ、昨年十二月十二日「御嶽神社竣工奉告祭」が齋行されたのである。 工事は、全島民の御協力のもとより、地方で御活躍中の島出身の人々等々のたいた御協力によってなされ、又、一般崇敬者の心からなる御協力によって工事が進められたのである。

弘江組 (宗像市) をはじめ、宗像市各々の厚い信仰からなる工事に、ここに立派に竣工落成を向えることが出来たのである。

### 大島村の成人祭

大島の人々で賑わい、人口もグーンとふくれあがり、ここ 前大島村も、よりややく正月祭の賑わいも一段落した今日このごろである。 今年のは好天に恵まれ、宗像大社中津宮の御社に新年の初詣での人々で賑わった。

大島村では、列年正月二日に成人祭が齋行され、引続いて総合センターに於いて成人式が行われる。 新しく成人となられた人々の輝く顔が、正月風景にピッタリである。大島の人々で人口もふくれあがり、同島であるが、三ヶ日がすむと、静かな平凡な日となるのである。

しかし、漁船のエンジン音は、一段と村内で響きわたる活気をおびてくる。 各船団とも正月三ヶ日が出漁するに... 県下でも上部の水揚げを誇る前大島村の水産業であり、各船団の熱気も一層と新しくむんむんとあふれ出る。

中村国美弥村長の指導のもと、新しいアイデアにより、次々と話題を提供する漁業を中心の村の経済なれば、作る漁業への変身、畜産業・林業にも変化をとり、一口に取る漁業から作る漁業へと... などとカッコの良いことを云っておるが実際の姿、生活をもとに考えた時、そうそうカッコのよいことがあつておられないのが実生活なのである。 個人個人の生活経費で見れば、ここ大島村は決して豊かな生活力があるとは云えない。

しかし、一日も早く、この平均に近づくべき、否、この生活力をこえるべき力を養うべき、喜びが、ここ大島の地には息づいている。 昭和五十九年こそは、この夢を追いつつ、実力を養いつつ成長して行く事を祈りたい。 大島村の大きな発展を、大きな飛躍を信じて!!



### 二月祭典案内

<p>中津宮</p> <p>一日 月次祭 午前十一時</p> <p>二日 旧正月祭並大漁祈願祭 午前十一時</p> <p>四日 節分祭 午前十一時</p> <p>六日 御嶽宮祭 午前十二時</p> <p>十一日 建国祭 午前十二時</p> <p>十五日 月次祭 午前十一時</p>	<p>沖津宮</p> <p>一日 月次祭 午前十一時</p> <p>四日 節分祭 午前十一時</p> <p>十一日 建国祭 午前十一時</p> <p>十五日 月次祭 午前十一時</p>	<p>建國祭</p> <p>二月十一日は、神武天皇が、日向の高千穂を出立され大和の橿原宮に皇居を定められ初代の天皇として即位された日であり、建國をしのび日本の誕生を祝う日です。 当大社でも列年、同日には建國祭が厳粛に行なわれております。</p>
--	--	--

昭和五十九年 1984

交通安全宗像大社の 御神徳をたたえ奉りて

謹んで新年の御祝詞を申し上げます

<p><b>九洲三菱ふそう自動車販売株式会社</b></p> <p>取締役社長 神崎 義正</p> <p>福岡市東区箱崎五丁目七番二</p> <p>電話代表 81-81-81</p>	<p><b>Hino</b></p> <p>福岡日野自動車株式会社</p> <p>取締役社長 植竹 陽介</p> <p>福岡市東区箱崎五丁目七番七</p> <p>電話代表 81-11-71</p>	<p><b>mazda</b></p> <p>株式会社 マツダオート福岡</p> <p>代表取締役社長 中島 国彦</p> <p>福岡市博多区東比恵四丁目番十号</p> <p>電話代表 41-603-119</p>	<p><b>DAIHATSU</b></p> <p>福岡ダイハツ販売株式会社</p> <p>代表取締役 内山 学</p> <p>福岡市博多区東比恵四丁目番十号</p> <p>電話代表 41-331-31</p>	<p><b>ISUZU</b></p> <p>福岡いすゞ自動車株式会社</p> <p>代表取締役 山下 哲也</p> <p>福岡市博多区東比恵四丁目番十号</p> <p>電話代表 41-153-11</p>	<p>福岡スバル自動車株式会社</p> <p>取締役社長 中井 隆</p> <p>福岡市博多区東比恵四丁目番八号</p> <p>電話代表 41-813-11</p>
---	--	---	---	---	--

宗像大社歌会  
俳句作品集(五)

八幡西 磯谷 緑雨  
愚なき孫どちよりの初便り  
を時にさびしむ

福間 広渡一寿軒  
風花に煙を打たせて千鳥足  
を

田熊 力丸 一郎  
老残えとどく酒屋の新こよ  
み

福間 二宮 末子  
あどげなき孫の笑顔に苦笑  
う

田熊 安部 ゆき  
平凡に生きて悔なし虎落笛  
(もがらぶえ)

東京 白木 静江  
数へ日をいとほしみつつ尉  
と姥

香椎 板矢クニコ  
春潮や大漁旗揚げとびが舞  
い

鐘崎 岩瀬 辰夫  
年賀状文けはと覗洗ひけり  
初詣祈りは遠き子と孫と

福間中央丸ゆずる  
名古屋 野崎 傳三  
着ぶくれの老婆朝のうす化粧

藤沢 井上 玄洋  
家の子を寄せて寿々今朝の  
春

津屋崎 井浦 良介  
羽子板つく睦美わし雲の穴



第二〇回 宗像大社歌会詠草  
毎月一日ノ切 詠草到着順

津屋崎 内田 久美  
誰にも会えぬ日もある吾れ  
が人に会いて口数多くなる  
を時にさびしむ

通り堂 木梨よしの  
永年の勤続賞を受くるけふ  
このバス停に今朝も待ちを  
り

名古屋 野崎 傳三  
新懇田(あらきだ)に稲城  
並びて青々と穂穂(ひつじ  
は)潤ゆる木高の山峽

吉留 高山 信子  
わが如のいんげんやれば細  
り立ての里芋貰う友ありて  
幸

福間 二宮 末子  
七五三晴着姿のやんちゃの  
子パパの写真にかしこまり  
おる

八幡西 磯谷 緑雨  
燈を消せば秋忍び寄る夜の  
静寂手に染む密柑の匂ひ仄  
かに

原町 塩川ハルコ  
葉の散りし梅の木にからむ  
からす散りき木二つ風にお  
どれり

鐘崎 岩瀬 辰夫  
健やかに過ぎて八十路のお  
たりなり履蘇波み交はし祝  
ふ初春

福間 広渡一寿軒  
野良帰りの足洗いつつ若き  
嫁幸せらしく唄口ずさむ

王丸 村山 菊代  
在りし日に植え置きし枇杷  
の枝茂りつづらな花にまた  
らいており

原町 八波 五月  
刈り後の落ち穂啄む小鳥等  
が日暮の早き林にしつむ

田久 小方 実  
召され征きて駄馬隊の蹄跡  
守りしは同年兵なりき三十  
七才

武丸 原田まつ代  
山深く埋れし巨石田舎家  
の庭に風雅を添えて賞でら  
る

田久 立花 勇雄  
金婚を子らの祝うてくれる  
とみその日を持ちて菊の手  
入れす

吉留 白木うめ乃  
いくばくもなき余命とて集  
りのよきクラス会老いては  
をらす

戸畑 田中ハツセ  
無重力の宇宙船内身も軽く  
泳ぎて見するドイツ科学者  
や

田熊 鷺津かつ代  
人影のなき正月の製材所杉  
材のみがしるく匂へり

自由ヶ丘 後藤君代  
夕西ひるがる空に木蓮の花  
芽光るをひととき仰ぐ

福間 高橋辰次郎  
千歳より残り大祖の五輪  
塔ほそりて野茨の蔓がから  
まる

若松 高橋 忠実  
幾世代守り継がれし峠田は  
ダムと消えしか跡かたもな  
く

東野 田中 春子  
メモの終りに丸印つて願ひ  
ごと叫びし今日の日記を閉  
づる

香椎 桜井 ツ子  
人も馬も一つの舟に川辺川  
渡りき若く村出づる日に  
づる

津丸 古賀 文月  
年の暮毎年いたく御歳暮  
を孫と話しつつ障子張るな  
り

田熊 力丸 一郎  
飛脚の川縫いつつ渡る国鉄  
の赤き電車が眼下に見ゆる

深田 中野 節子  
山の間に今朝打つ寺の鐘の  
音数へてふたり床に覚めつ  
つ

津丸 藤田 肇  
躑躅は何なる恵みのある  
ならむ阿弥陀如来の足艶め  
かし

池田 永富 謙  
残照に光る潮を乱しつづ渡  
船のいまし波止に入り来る

津屋崎 高田マサ子  
猫脚可愛々々とははずりす  
孫権やかな二歳の春

津屋崎 谷口 礼子  
アメリカの宇宙飛行士帰っ  
きて元神とのみ云いしとか  
や

東郷 藤崎 辰子  
橋の下よりくらげつづつき  
に現はれて湖の流れに逆ら  
ひ遊ぶ

武丸 立石ろせ乃  
青空に浮きて東へとゆく雲  
が淡く残れる月をかくしぬ

福間 中村 勇  
襟元に乗る風の寒さし散  
髪を終へ帰る夜の道

福間 山本 夏枝  
宵のうちはをほや西方開空  
にかしきて細く照二日月

原町 中村 幸  
石路の白き穂如糸を部屋内  
に捉へむとしてまた迷した  
り

日里 清原 嗣代  
本願寺の朝の掃除に奉仕せ  
る婦人会員むすすらに拭く

大島 大島 勝代  
静臥して療養を待つししか  
なき吾れは声には出さず心  
経を誦す

大島 屋形とみえ  
大師まつる庭に寄り来る矮  
鶏の群吾等遍路の道をささ  
ぎる

大島 目原 節子  
紅葉谷つなぎて長き吊橋に  
浴びて虫干しのごと日向ほ  
こする

大島 中村まつき  
川原を這ひつづ焼くる泡立  
草時に音たてて火柱のたつ  
な

大島 本田よしえ  
晩秋の入りには海は赤く染み  
渚も舟も夕映の中

大島 佐藤 八郎  
岩場に釣りにする人の足も  
とに波たち騒ぐ冬の荒磯は

大島 豊福 猪走  
北風の身を切る如き寒き日  
は吾が飼う鯛の底を動かす

大島 目原たか子  
うす暗き御堂の中は念願の  
叶るし人形山と積まるる

大島 藤田よし子  
夜の河口潮満ち来らし街の  
灯のゆれてやまざる橋を渡  
り来

大島 田志 雅子  
落葉して梢に残る熟れ柿に  
初めてぞ見る小鳥とびくる

大島 板矢あきえ  
真夜中の病院の廊下の時お  
きて松葉杖の音静かに響く

八幡西 安川 浄生  
敷きつめし如くに池の底に  
散る紅葉すし寂光院は

田野 山口 和江  
風を海を漂うごとく寒月に  
葉のなき木々の黒々と浮

福間 松尾 和子  
暮れ残るつわぶきの花の黄  
鮮し初恋の人の訃を聞きし  
日に

田野 森 つるの  
初めての造花作りを挑戦す  
手込みし細工に仕上げ待た  
るる

田島 田中ツタエ  
長命を神に祈りし老いのむ  
れ寺の観音に惚けなきを乞  
う

池田 占部ユキ子  
枯れがれのつるに下りし鳥  
爪の夕映の中赤くゆれ居る  
う

江口 小林万里子  
うらうらと小春日和の陽を  
浴びて虫干しのごと日向ほ  
こする

田野 山口 タキ  
庭先の木犀の花散りはてて  
な おも香りの土に匂へり

賀正

玄界灘の景観を一望出来る  
開場二十一年の名門一流コース  
西日本開発株式会社  
玄海ゴルフクラブ  
福岡県宗像郡玄海町  
電話〇九四〇六二二三三三

節分祭ご案内

新春を迎え、貴家益々、御清栄の段慶賀に存じま  
す。当大社恒例の節分祭を左記の如く斎行致しま  
すので御参拝下さいませよう御案内申し上げます。  
一、日時 昭和五十九年二月四日 午前十時  
一、会場 当大社祈願殿  
昭和五十九年一月吉日  
宗像大社社務所  
各位

記

一、祈願祭典場 於儀式殿  
一、祈願初穂料 一人 三〇〇〇円  
一、授与品 福升一箇(福豆入一合)  
厄除守 一俵

賀正

松尚開発株式会社  
福岡国際カントリークラブ  
池と赤松の三十六ホール  
福岡県宗像市大字朝町  
電話〇九四〇六二二三三四四

新年おめでとうございます

〇玄海国定公園の中心……風光明媚……生魚料理……宗像大社からバス五分……神湊旅館組合

あ	魚	み	玄	高	望	千	大	喜	松	友	泉	玄	川	勝	は
庄	屋	な	海	嘉	波	鳥	島	楽	風	楽	館	洋	口	浦	庄
電話〇九四〇六二二三六番	電話〇九四〇六二二三番	電話〇九四〇六二二五五番	電話〇九四〇六二二〇〇一番	電話〇九四〇六二二二二一番	電話〇九四〇六二二二二一番	電話〇九四〇六二二〇六八番	電話〇九四〇六二二五五五番	電話〇九四〇六二二三三三番	電話〇九四〇六二二二〇二番	電話〇九四〇六二二二四四番	電話〇九四〇六二二〇三五番	電話〇九四〇六二二二七番	電話〇九四〇六二二〇四八番	電話〇九四〇六二二四七番	電話〇九四〇六二二〇五〇番